



**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	他部門研修における新人看護職員の学びの内容
Author(s)	鈴木, 理恵、首藤, 英里香、濱田, 奈緒子、梶川, 景子、佐々木, 純子、正岡, 経子、大日向, 輝美、荻原, 直美
Citation	札幌保健科学雑誌 5号 83 - 88 2016
Issue Date	2016年3月
DOI	10.15114/sjhs.5.83
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6751">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6751</a>
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n2186621X583.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報告

## 他部門研修における新人看護職員の学びの内容

鈴木理恵<sup>1)</sup>、首藤英里香<sup>2)</sup>、濱田奈緒子<sup>1)</sup>、梶川景子<sup>1)</sup>、佐々木純子<sup>3)</sup>、正岡経子<sup>4)</sup>、大日向輝美<sup>2)</sup>、萩原直美<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> 札幌医科大学附属病院看護キャリア支援センター

<sup>2)</sup> 札幌医科大学保健医療学部看護学科

<sup>3)</sup> 札幌医科大学附属病院医療安全部

<sup>4)</sup> 札幌医科大学助産学専攻科

<sup>5)</sup> 札幌医科大学附属病院看護部

本研究の目的は、チーム医療研修の一環として実施した他部門研修における新人看護職員の学びを明らかにすることである。他部門研修は薬剤部、放射線部、検査部、医療材料部、SPDセンター、リハビリテーション部の計6部門のうち2部門において、各専門職に同行する方式で行われた。研修終了後に提出されたレポートから研修による学びを示す記述内容をデータとし、質的に分析した結果、①他職種への役割機能の理解、②他職種への感謝と配慮の思い、③他職種との連携の必要性の認識、④チーム医療の実感、⑤病院経営を考慮した働き方への意識、⑥自己の看護実践の質向上につながる学び、⑦看護職の役割と責任の自覚、の7カテゴリーが抽出された。以上より、新人看護職員は他部門研修を通して他職種の役割や他職種との連携・協働の必要性、チーム医療における看護職の役割に関する認識を深めていたことがうかがえた。

キーワード：新人看護職員、他部門研修、チーム医療

### Benefits of Cross-Divisional Training for New Graduate Nurses in their Learning

Rie SUZUKI<sup>1)</sup>, Erika SHUDO<sup>2)</sup>, Naoko HAMADA<sup>1)</sup>, Keiko KAJIKAWA<sup>1)</sup>, Junko SASAKI<sup>3)</sup>,  
Keiko MASAOKA<sup>4)</sup>, Terumi OOHINATA<sup>2)</sup>, Naomi HAGIWARA<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> Center for Nursing Career Support, Sapporo Medical University Hospital

<sup>2)</sup> Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

<sup>3)</sup> Division of Medical Safety & Risk Management, Sapporo Medical University Hospital

<sup>4)</sup> Graduate Course in Midwifery, Sapporo Medical University

<sup>5)</sup> Division of Nursing, Sapporo Medical University Hospital

At Sapporo Medical University Hospital, the training program for newly qualified graduate nurses and midwives (up to 12 months post-qualification) includes visits to hospital's central functions to enhance their understanding of multi-disciplinary team medicine. They visit, accompanied by the host division's staff, two out of six selected divisions (Hospital Pharmacy, Radiology & Nuclear Medicine, Laboratory Diagnosis, Line & Appliance Supply, SPD Center, and Rehabilitation Medicine). This study was undertaken to investigate how newly qualified graduate nurses benefitted from this scheme in their learning. Using feedbacks submitted by the subjects upon completion of the training course, descriptions about learning from their visits were extracted and analyzed. Seven learnings were identified; "understanding the roles and functions of other disciplines", "appreciating care and considerations shown to other disciplines", "recognizing the importance of working together", "realizing how multi-disciplinary team medicine works", "introducing the hospital management perspective to one's work", "learning which would help improve the quality of one's nursing practice", and "recognizing the role and responsibilities of nursing". These results suggest that the new graduate nurses gained insight into the roles of other disciplines, the need of the multi-disciplinary team medicine cooperation, and the role of nursing in the multi-disciplinary team medicine from cross-divisional training.

Key words : New graduate nurses, cross-divisional training, multi-disciplinary team medicine

Sapporo J. Health Sci. 5:83-88(2016)

DOI:10.15114/sjhs.5.83

## I. はじめに

平成22年より新人看護師への臨床研修が法的に努力義務となり、厚生労働省より新人看護職員研修ガイドライン<sup>1)</sup>が公表された。このガイドラインに示された到達目標には「チーム医療の構成員として役割を理解し協働する」との項目が含まれ、チーム医療に関する教育が重要視されている。新人看護師を対象とするチーム医療に関する研修としては、入職時オリエンテーションでの他部門に関する講義や見学<sup>2)-4)</sup>、入職数ヶ月後の他職種の業務見学<sup>5)-6)</sup>、入職後数ヶ月に渡る他部門でのローテート研修<sup>7)</sup>等が紹介されており、医療施設によって研修の実施状況は異なることが伺える。しかし、こうした研修の評価や新人に与える研修成果等に関する研究や報告はほとんどない。

新人看護師が受けてきた基礎教育の状況を見ると、平成20年度に改正された保健師助産師看護師学校養成所指定規則<sup>8)</sup>において統合分野が設けられ、チーム医療に関する教育内容の強化が求められており、看護基礎教育の段階からチーム医療に関する教育プログラムが展開されている。先行の文献では、病院実習を用いたチーム連携に関する教育<sup>9)</sup>や、医学生と看護学生が合同で行う臨床看護場面の見学実習<sup>10)</sup>等、早期体験実習を活用した教育プログラムが報告されている。札幌医科大学附属病院（以下、当院とする）の新人看護職員の約3割の出身校である札幌医科大学においても医学部と保健医療学部（看護学科、作業療法学科、理学療法学科）の合同カリキュラムとしてチーム医療を学ぶ臨地実習等を展開している<sup>11)</sup>。しかし、教育機関によって教育内容に違いがあることや、実習先の医療施設の機能や規模により医療関連職種の構成も様々であることから、チーム医療に関する経験や学びのレベルは教育背景によって異なると言える。よって、看護師がチーム医療の構成員として協働していくためには、就職後に自施設においてチーム医療に関する統一した研修を受けることが重要な意味をもつと考えられる。

当院は毎年70名程度の新人看護職員を迎えるが、その教育背景は様々であるため、チーム医療に関する学習経験は一様ではないのが実情である。当院の新人看護職員研修は、看護技術研修、看護基盤研修、チーム医療研修の3本柱で構成されており、チーム医療研修はチーム連携・協働のあり方を学ぶとともに、看護師としての役割認識を深める機会としている。

しかし、平成25年度までの当院におけるチーム医療に関連した研修は、4月の新規採用看護職員研修における医療材料部、放射線部、薬剤部の3部門の責任者による講義のみの現状であった。特定機能病院である当院の特性として多くの医療職が存在するが、患者中心の医療を実現する上で医療職間の連携を図っていくことは必須である。そのた

めには、他職種と交流するだけでなく、他職種の役割機能を理解すること、そしてチーム医療において看護職が果たすべき役割機能を理解し実践することが必要と考える。以上のことから、他職種の役割やチーム連携・協働のあり方、チーム医療における看護の役割等を理解し日々の看護活動につなげるためには、講義に加えて他職種の役割機能を具体的に学ぶ経験が必要ではないかと考えた。

そこで、平成26年度より新人看護職員を対象に、他部門において各専門職に同行する方式で研修を行う「他部門研修」を企画し実施した。本稿ではチーム医療研修の一環として実施した他部門研修における新人看護職員の学びの内容を明らかにすることを目的として報告する。

## II. 他部門研修の概要

### 1. 研修目標

同行研修を通して他部門、他職種の役割機能を理解すると共に連携・協働の必要性を認識し、チーム医療における看護職の役割を自分なりに説明できる。

### 2. 研修方法

研修方法については表1の通りである。

## III. 研究方法

### 1. 対象

平成26年度に当院の他部門研修を受講した新人看護職員66名から提出された研修終了後レポートのうち、記録内容を研究データとして利用することに同意が得られた65名(98.5%)のレポートから、「他部門研修の学び」に関する記述内容をデータとし分析した。

### 2. 分析方法

提出されたレポートに記載されている内容を繰り返し読み、他部門研修の学びについて記述された一文章を一記録単位として抽出し、意味内容の類似性に従ってカテゴリー、サブカテゴリーを抽出した。以上の作業は複数の研究者で行い、分析結果の妥当性、一貫性の確保に努めた。

## IV. 倫理的配慮

新人看護職員には本研究の趣旨と、協力は自由意思であること、匿名性は保持されること、個人の評価やその後の勤務には影響しないことを口頭及び書面で説明した。研修終了後レポート用紙の欄外に設けた「記録内容を研究データとして利用することに同意するか否か」の選択肢において「同意する」と回答した者のレポートを研究対象とした。なお、本研究は札幌医科大学倫理委員会の承認を得た（承認日：平成26年8月19日）。

表1 研修方法および内容

方法	内容
1. 同行研修	1) 薬剤部、放射線部、検査部、医療材料部、SPDセンター（病院内の医療材料の物流を一元管理する部署）、リハビリテーション部の6部門のうち一人2部門で同行研修を行う 2) 1グループ4～5名とし、午前と午後に2時間ずつそれぞれ別の部門で研修する 3) 各部門では説明を受け見学を行う ①薬剤部 ・処方箋オーダーから調剤までの流れ ・注射薬（抗がん剤等）のミキシング場面 ・麻薬や規制薬品の管理や払出し ②医療材料部 ・洗浄、滅菌業務 ・メッセージャー業務 ③放射線部 ・透視室、CT室、PET/CT室、一般XP室、MR室、核医学検査等での検査 ④リハビリテーション部 ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のリハビリテーション活動 ⑤院内SPDセンター ・SPDシール回収後から払出しまでの流れ ・各病棟への医療材料の補充 ・在庫管理状況 ⑥検査部 ・検体到着から検査終了までの流れ（生化学、緊急、血液、一般、血清、細菌、輸血）
2. 報告会	1) 同行研修終了後に行う 2) 報告会のグループは、各部門の研修先に行ったメンバーが全て入るように再編成する 3) 同行研修を通して学んだこと、気づいたこと、感じたこと、考えたことをグループ内で発表し合い、学びを共有する 4) 各グループに研修運営者が1名ずつファシリテーターとして参加する
3. 研修終了後レポート	研修先および見学内容の他、同行研修を通して学んだこと、気づいたこと、感じたこと、考えたことについて記載し提出する

## V. 結 果

研修終了後レポートに記載された内容を分析した結果、他部門研修における新人看護職員の学びとして7カテゴリと29サブカテゴリを抽出した（表2）。以下、カテゴリに沿って新人看護職員の学びを記す。分中の【 】内はカテゴリ名、〈 〉内はサブカテゴリ名を示したものである。

### 1. 【他職種への役割機能の理解】

サブカテゴリは5つであった。新人看護職員は実際に他部門に行き他職種の業務を見聞きしたことで〈他職種の業務のイメージ化〉ができたと共に、薬剤が何重ものチェックを受けて病棟に届くことを知ったという〈患者の安全につながる他職種の業務の理解〉や〈他職種の業務における責任の理解〉、患者個々に合わせたリハビリテーションなど〈患者の個別に合わせた業務の理解〉、〈他職種の業務の大変さの理解〉を得ていた。

### 2. 【他職種への感謝と配慮の思い】

サブカテゴリは5つであった。新人看護職員は他職種の役割機能を理解したことで、〈患者の安全につながる他職種の業務への感謝〉及び〈他職種に支えられていることへの感謝〉の思いを抱いていた。さらに〈他職種の業務の円滑化につながる看護業務の理解〉や〈配慮の気持ちを持って他職種と協働しようという思い〉、他職種が感染しないよう針等は所定の場所に捨てるなど〈他職種の安全を守る看護業務への意識〉を高めており、他職種への配慮の思いを抱いていた。

### 3. 【他職種との連携の必要性の認識】

このカテゴリは〈他職種との情報共有の必要性〉〈他職種との連携がもたらす効果の理解〉〈他職種との連携への意欲〉の3つのサブカテゴリで構成された。他職種と情報を共有する必要性や連携の効果を知り、他職種との連携の必要性を学んでいた。

### 4. 【チーム医療の実感】

サブカテゴリは4つであった。新人看護職員は、研修

表2 他部門研修終了後レポートの記載内容分析結果

カテゴリー	サブカテゴリー	具体的な記載例 (一部抜粋)
他職種 の役割機能 の理解	他職種の業務のイメージ化	「普段使用している器械がどのように洗浄されて滅菌となるのかの過程を理解できた」
	患者の安全につながる 他職種の業務の理解	「薬剤や注射、抗がん剤が何重ものチェックをされてから病棟に上げられているのを知った」
	他職種の業務における責任 の理解	「薬剤師は医師の指示箋をうのみにはしているわけではなく、正しい量(妥当な量なのか)等をチェックしており、責任が伴っていることが印象的だった」
	患者の個別に合わせた業務 の理解	「リハビリテーション部では患者個々に合った方法で機能の維持・回復を図っていることを知った」
	他職種の業務の大変さの 理解	「薬剤の一包化は機械で行うがその機械に入っていない薬は薬剤師が一つずつ手作業で入れてもらえているので大変な作業だということを実感できた」
他職種への 感謝と配慮 の思い	患者の安全につながる他職 種の業務への感謝	「他部門がきちんと準備・確認を行ってくれているおかげで私たちが安全安楽な医療を患者さんに提供できる」
	他職種に支えられているこ とへの感謝	「私たちが患者さんに看護を提供することができるのは物品や薬剤を作り、届け、使いやすく配置して下さる他部門の方がいてくれるからこそなのだと感じ感謝の気持ちをもって日々の業務に努めていきたい」
	他職種の業務の円滑化につ ながる看護業務の理解	「SPDシール一つの貼り方を丁寧にすることでSPDセンターでラベルの読み取りを円滑に進められる」
	配慮の気持ちをもって他職 種と協働しようという思い	「医療職以外の方々も看護師が働きやすいように考えて働いてくれていて看護師としてマナーを守って他の職種の方々も働きやすいように業務を行う必要がある」
	他職種の安全を守る看護 業務への意識	「洗浄・滅菌する人の感染を予防するために、針等は所定の場所に捨てるなど、看護師側からも安全を守るよう配慮することが大切」
他職種との 連携の必要性 の認識	他職種との情報共有の 必要性	「今どんなリハビリをしているのか、目標は何かなどをPT・OT・STの方とも共有していくことが患者さんのリハビリにとって必要」
	他職種との連携がもたらす 効果の理解	「薬剤師さんたちと連携を取り患者にとって最適な剤形を考えることができるとわかった」
	他職種との連携への意欲	「これからは少しでも他部門とコミュニケーションを取りながら看護をしていけるように努力したい」
チーム医療 の実感	多くの職種が患者に関わっ ていることの理解	「他部門研修を通して患者一人に対して医師や看護師、理学療法士や検査技師などいろんな医療職の方が周りにいて患者を支えているのだと実感した」
	他職種に支えられていると いう自覚	「チーム医療を考えたときに、医療職者だけではなく、私たちが支えて下さっている方々の存在があるからこそ患者さんに良い医療を届けることができるという事を忘れてはいけない」
	看護職と他職種の連携の 実感	「看護は医師などの病棟にいるスタッフだけでなく他の部門とも連携しているのだということを学んだ」
	チーム医療の一員としての 自覚	「今回の見学で学んだことを病棟の看護に反映させ、医療チームの一員として患者さんのケア、医療に携わって行きたい」
病院経営を 考慮した 働き方への 意識	一職員として病院経営に 貢献することへの意識	「病院の経営にもつながるため、物品管理に関し一職員として気を付けていく必要がある」
	コスト削減につながる 働き方への意識	「医療材料を不用意に落としてしまったり、必要のないものを開封したりして廃棄や再滅菌にならない様気を付ける」
自己の看護 実践の質向上 につながる 学び	他部門に関連する基礎知識 に関する学び	「検査部では、検体搬送時のスタンダードプリコーションの必要性や検体採取時の留意点について理解することができた」
	他部門に関係する病棟業務 の意味や注意点への気づき	「普段何気なく行っている業務はどこに注意すべきか、行為の意味を深く理解できた」
	自己の業務における改善の 必要性への気づき	「病棟での自分の業務に関して医療安全と感染制御の面から見直す必要がある」
	正しい物品管理への意欲	「SPDの方は物品の期限や滅菌物の扱い方に細心の注意を払っていることがわかり私も気をつけようと感じた」
看護職の 役割と責任 の自覚	患者の安心につながる対応 の重要性の認識	「看護師は検査をうける患者が安全に安心して臨めるようにサポートする役割がある」「放射線という言葉は患者さんや家族にとっては怖かったり不安に思う事だと思うので安心していられるように細かい声かけ説明が大切」
	他職種間の調整の役割の 自覚	「退院に向けて不安な点を聞きリハビリに関連があれば不安な動作を訓練してもらうよう依頼し患者が不安なく退院できるよう調整が必要」「他専門職による介入の必要性を判断することは看護師の責任」
	他職種への情報提供の役割 の自覚	「病棟では患者さん一人一人と過ごす時間はたくさんあってどんな方がわかるけど、検査はその時間だけなので検査技師さんにその患者さんのことを伝えて情報を共有することでより良い関わりが統一できると感じた」
	患者の安全を確保する責任 の自覚	「最後に患者に与薬・投与する看護師が最後にチェックすることで患者に正しい薬剤を提供でき安全な医療につながる」「採血結果は患者の今後の治療にも影響するため採血前の清潔動作、採血量確認をしっかり行い検査結果に影響しないように注意する必要がある」
	専門職としての自覚	「自分も専門職としてプロ意識をもって真面目に誠実に仕事をしなければと思った」
さらなる学習の必要性の 認識	「これを機に他部門の業務に関してもう少し勉強し直そうと思った」「なぜ検査データに影響が出るのか根拠がわかったら取扱いも気をつけられると思うので自分でも勉強したい」	

を通して〈多くの職種が患者に関わっていることへの理解〉や〈他職種に支えられているという自覚〉〈看護職と他職種の連携の実感〉から〈チーム医療の一員としての自覚〉を得ており、チーム医療の実感につながっていた。

#### 5. 【病院経営を考慮した働き方への意識】

このカテゴリーは〈一職員として病院経営に貢献することへの意識〉〈コスト削減につながる働き方への意識〉の2つのサブカテゴリーが抽出され、病院経営への意識の向上が見られた。

#### 6. 【自己の看護実践の質向上につながる学び】

このカテゴリーは〈他部門に関連する基礎知識に関する学び〉、業務の注意点や行為の意味の理解等の〈他部門に関係する病棟業務の意味や注意点への気づき〉、〈自己の業務における改善の必要性への気づき〉〈正しい物品管理への意欲〉の4つのサブカテゴリーが抽出された。他部門の役割や業務を知って日々の看護業務を振り返ることでより好ましい業務の方法に気づいており、看護実践の質の向上につながる学びを得ていた。

#### 7. 【看護職の役割と責任の自覚】

サブカテゴリーは6つであった。新人看護職員は、検査を受ける患者が安心して臨めるように関わるなど〈患者の安心につながる対応の重要性の認識〉や〈他職種間の調整の役割の自覚〉〈他職種への情報提供の役割の自覚〉をしており、チーム医療において看護師が果たすべき役割について学んでいた。また、〈患者の安全を確保する責任の自覚〉や〈専門職としての自覚〉〈さらなる学習の必要性の認識〉など看護専門職としての責任を自覚していた。

## VI. 考 察

本研究で抽出されたカテゴリーから、他部門研修における新人看護職員の学びの内容として、他職種への理解、チーム医療に関する学び、看護に関する学びに大別された。以下、3つの学びについて考察する。

### 1. 他職種への理解

新人看護職員は、他職種による患者の安全につながる業務やそれに伴う責任、他職種の業務の大変さ等の【他職種の役割機能の理解】を得ていた。他職種の業務に同行し見聞きした同行研修は、他職種の業務をイメージ化でき理解を促したと思われる。また、日々の看護活動が他職種に支えられていることや患者の安全につながる他職種の業務への感謝、他職種の業務の円滑化や他職種の安全につながる看護業務を実践しようという意識など、【他職種への感謝と配慮の思い】を抱いていた。井部ら<sup>12)</sup>は、他職種間の連携の望ましい実践には互いの専門性を理解した信頼に基づく人間関係が重要としている。新人看護職員にとって本研修は他職種の専門性を理解し、他職種への信頼感を高める機会となっていたと思われる。これらの学びは今後チーム医療における他職種との良好な関係性の構築につながるこ

とが期待できる。

### 2. チーム医療に関する学び

新人看護職員は【他職種との連携の必要性の認識】を得ており、「これからは少しでも他職種や他部門とコミュニケーションを取りながら看護をしていけるよう努力したい」という連携への意欲を示す記述が見られた。連携の効果や必要性の理解に加え、同じ組織に勤める他職種が実際に働く様子や顔が見える本研修は、他職種を身近に感じる機会となり、他職種へ関わることへの意識や意欲が高まったと思われる。これはチーム医療の要素として重要な仲間意識や、良好な関係性の構築にもつながるものと考えられた。

また、新人看護職員は自施設で実践されている【チーム医療の実感】を得たり、【病院経営を考慮した働き方への意識】を高めており、チーム医療および病院組織の一員としての自覚にもつながる学びを得ていた。大塚ら<sup>13)</sup>は、新人看護師には病棟で業務に慣れて医療処置の方法を身に着ける一方で、多職種と共にチーム医療を担っていくことを自覚する研修も必要と述べている。チーム医療の実感やチーム医療および病院組織の一員としての自覚は、新人看護職員にとって日々の看護実践からは得にくいものであり、本研修が新人看護職員研修に位置づけられていることはチーム医療の推進において重要であると考えられた。また、本研修は看護職のみが主体的に学ぶ形式だが、近年は各職種を対象にした専門職連携の研修を行う施設も見られる<sup>14)</sup>。他職種とともに学び合うことでより互いの専門性の理解や連携につながることから、将来的には他職種との合同研修プログラムの検討も必要と思われる。

### 3. 看護に関する学び

新人看護職員は他部門の役割機能に関する学びから、日々の看護業務を見直し【自己の看護実践の質向上につながる学び】を得ていた。また、患者の安心につながる対応や、他職種間の調整、他職種への情報提供など、チーム医療において看護職が果たすべき役割を自覚していた。渡辺ら<sup>15)</sup>は、新人看護職員を対象にした他職種部門の研修効果の報告の中で、各職種の病院内での役割・機能の実際を知ることによって改めて看護の専門性を考えることができたとしており、本研究と同様の結果と言える。

また、新人看護職員は患者の安全を確保する責任や看護専門職としての自覚の他、さらなる学習の必要性を感じていた。正野ら<sup>16)</sup>は、医学生を対象に行った早期体験実習において、医療現場を知り今後の学習課題が明らかとなり医学生としての自覚や医療者としての姿勢がイメージできるようになったとしている。本研修においても新人看護職員は他部門の役割機能を知ることによってチーム医療における看護職の役割や責任を自覚し、自己の学習課題を見出していた。この【看護職の役割と責任の自覚】は看護職の姿勢につながるものであり、看護職としてチーム医療に貢献していく上での基盤になる学びであると共に、新人看護職員研修ガイドライン<sup>17)</sup>の中で臨床看護実践能力の構造の中核として

示される「看護職員としての基本姿勢と態度」にも通じる学びであると考えられた。このことから看護職1年目の段階から本研修を行うことの重要性が示唆された。

## Ⅶ. ま と め

本研究では、他部門研修における新人看護職員の学びを明らかにすることを目的に研修終了後レポートを質的に分析した結果、新人看護職員は他部門研修を通して他職種の役割や他職種との連携・協働の必要性、チーム医療における看護職の役割に関する認識を深めていたことが伺えた。

## Ⅷ. 本研究の限界と今後の課題

本研究は研修開始初年度のみの結果を分析したものであるため、今後もデータを蓄積し、本研修で得られる学びの内容を明らかにしていくことが課題である。

## 文 献

- 1) 厚生労働省：新人看護職員研修ガイドライン改訂版。厚生労働省，2014，p12
- 2) 市立旭川病院看護部：平成27年度新人研修。2015。  
[http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hospital/ach/nurse/newhire\\_training27.html](http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hospital/ach/nurse/newhire_training27.html)，(2015-11-5)
- 3) 三楽病院看護部：新人教育プログラム。2015。  
<http://www.sanraku.or.jp/nurse/education02.html>，(2015-11-5)
- 4) 静岡県立総合病院看護部：教育研修制度。2015。  
<http://www.shizuoka-pho.jp/sogo/nursing/training-system/rookie/index.html>，(2015-11-5)
- 5) 石山由紀子，大岡裕子，川西節子他：新卒看護師の早期離職防止に関する取り組み。日本看護論文集看護管理37：427-429，2006
- 6) 自治医科大学附属病院看護部 新人教育プログラム。2015。  
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/nurse/program/program11.html>，(2015-11-5)
- 7) 渡辺八重子，竹股喜代子：チーム医療を担う医療人を育てる個別初期研修プログラム。看護展望33(4)：416-421，2008
- 8) 看護行政研究会編：平成23年版看護六法。名古屋，新日本法規出版株式会社，2011，p152-154
- 9) 風岡たま代：看護基礎教育におけるチーム連携に焦点を当てた取り組みーリハビリテーション専門病院での実習を通してー。Quality Nursing9(11)：964-969，2003
- 10) 山下千波，金山正子，川口賀津子他：早期体験実習における学生の学びーチーム医療に関する学びに焦点を当ててー。日本看護論文集看護教育39：p319-321，2008
- 11) 相馬仁，白鳥正典，佐藤利夫他：地域医療支援を目指した本学の専門職連携教育。札幌医科大学医療人育成センター紀要3：1-4，2012
- 12) 井部俊子，中西睦子：看護管理学習テキスト第2版 看護組織論第2巻。東京，日本看護協会出版会，2011，p110
- 13) 大塚真理子，小野寺由美子：専門職連携を学ぶ地域基盤型IPE。看護65(4)：112-118，2013
- 14) 前掲書13)，p118
- 15) 前掲書7)，p419
- 16) 正野逸子，鷹居樹八子，井野恭子他：医学部1年次における大学病院での看護活動を中心とした早期体験実習の効果。産業医科大学雑誌31(4)：365-376，2009
- 17) 前掲書1)，p7-12